

2 指導と評価の計画

– 115 –

観点別評価

【社会的事象への関心・意欲・態度】

学習活動における 具体的評価基準		「十分満足できる」状況（Ａ）を実現している と判断した児童の具体的な状況例	「努力を要する」状況（Ｃ）と判断した児童への指導の手だて
ア①	①自分の家、身近な店や会社、公共施設における情報の働きや活用の仕方に関心を持ち、意欲的に調べようとする。	・家庭における聞き取り調査結果やグラフ資料、写真資料などをもとに、気付いたこと疑問に思ったことを進んで発表し、問題を焦点化して学習問題を設定しようとしている。	・気付きや疑問をもてない児童には、家庭での聞き取り調査結果や写真資料などから分かることなどを読み取らせ、そこから疑問を見つけられるように支援する。(1/8)
		・自分の家、身近な店や会社、公共施設を見学したり調査したりするなど情報をどのように仕事に生かしているか進んで調べている。	・調査が進まない原因を探り、相談にのったり、グループで協力して取り組ませたりするなど適切に支援する。(2/8～4/8)
ア②	②情報の有効な活用の仕方について考え、これからの情報と国民生活のかかわりについての関心を深める。	・これからの情報と国民生活のかかわりについて自分の考えをまとめた文章の中に、相手のことを考えて情報を収集したり発信した情報に対して責任をもったりすることの大切さに触れる記述が見られる。	・情報の有効な活用の仕方について、受信と発信の両面から気をつけることを考えさせ、自分の意見をまとめさせるようにする。(8/8)

【社会的な思考・判断】

学習活動における 具体的評価基準		「十分満足できる」状況（Ａ）を実現している と判断した児童の具体的な状況例	「努力を要する」状況（Ｃ）と判断した児童への指導の手だて
イ①	①自分の家、身近な店や会社、公共施設における情報の働きや活用の仕方について問題意識をもち、学習の見通しをもって追究、解決している。	・社会科の学習としての視点や、解決の可能性、重要性などの観点から問題を焦点化し、学習問題を設定している。	・問題の焦点化ができない子供には、身近な事例や写真やグラフなどの資料を提示し、それをもとにして考えるよう支援する。(1/8)
		・自分が担当する問題はグループの学習問題を解決する上でどのような意味があるのかを考え、視点を明確にもって適切に追究を進めている。	・問題解決の見通しがもてない子供には、学習の手引きを活用して進め方を確認させたり、資料活用のヒントを与えたりして、見通しがもてるようにする。(1/8)
イ②	②調べたことをもとに、我が国の通信などの産業が国民の生活に大きな影響を与えていることを考え、適切に判断している。	・情報の活用について、グループの中で自分が調べた結果を比べたり、つなげたり、まとめたりして考え、情報と生活、情報と産業とのかかわりについて、自分の考えをまとめている。	・情報たんけんカードやワークシートなどを振り返り、グループで調べた事実と事実を比べたり、まとめたりして、情報と生活、情報と産業とのかかわりについて自分の考えをまとめるよう支援する。(5/8)
		・情報の活用について、各グループが調べた結果を比べたり、つなげたりして考え、情報と生活、情報と産業のかかわりについて、自分の考えをまとめている。	・各グループの調べた事実と自分のグループが調べた事実を比べたり、まとめたりして、情報と国民生活のかかわりについて、自分の考えをまとめるよう支援する。(6/8)
イ②		・情報に囲まれた生活のよい点と問題点を指摘し、相手のことを考えて情報を収集し、発信する情報に責任をもつという観点から、自分の考えをまとめている。	・たくさんの情報に囲まれた生活のよい点と問題点について、具体的事例を挙げながら説明し、自分の考えをまとめるよう支援する。(7/8)

		これまでの学習成果をもとに、情報化社会と自分の生活とのつながりについて、自分の考えをまとめている。	ワークシートなどこれまでの学習成果を振り返らせ、情報化社会と自分の生活とのつながりについて、自分の考えをまとめるよう支援する。(8/8)
--	--	---	--

【観察・資料活用の技能・表現】

学習活動における 具体的評価規準		「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した児童の具体的な状況例	「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手だて
ウ ①	①自分の家、身近な店や会社、公共施設における情報の働きや活用の仕方について、見学、調査したり、各種の基礎的資料を活用したりして具体的に調べている。	情報調べの調査結果や写真、グラフ資料から、様々な場所で情報が活用されていることを読み取っている。	写真やグラフ資料の読み取りなど、一つの資料から分かることを丁寧に読み取らせ、そこからどんなことが言えるか考えさせていく。(1/8)
		問題解決のために資料を収集・選択し、そこから必要な情報を効果的に読み取っている。	資料の丸写しになっている子供には、キーワードを中心にできるだけ短い文でまとめるよう助言する。(2/8～4/8)
ウ ②	②自分の家、身近な店や会社における情報の働きや活用の仕方について、調べた過程や結果を友達に分かりやすく表現する。	グループで収集した情報を整理し、発表に向け、学習問題の解決に結びつく内容を中心に、写真や図、グラフ、イラストなどを使って分かりやすくまとめている。	情報たんけんカードやグループで話し合った内容をもとにして、どのように表現したら調べたことが効果的に伝わるか相談し、助言する。(5/8)

【社会的事象における知識・理解】

学習活動における 具体的評価規準		「十分満足できる」状況（A）を実現していると判断した児童の具体的な状況例	「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手だて
エ ①	①自分の家、身近な店や会社、公共施設では、必要な情報を集め生活や仕事に生かしていることが分かる。	自分の家、身近な店や会社、公共施設では、目的に応じて必要な情報を集め、生活や仕事に生かしていることが分かっている。	たんけんカードやワークシートなどの記述を振り返らせ、自分の調べたことをもとに、情報を生活や仕事に生かしていることに気付かせていく。(6/8)
	②我が国の通信などの産業は、国民の生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。	コンピュータと通信によって成り立っている情報社会の実情に気が付き、誤った報道や個人情報の流出などが国民の生活に大きな影響を及ぼしていることが分かっている。	誤報や個人情報の流出、迷惑メールやコンピュータウィルスなどの事例をもとに、通信などの産業が及ぼす影響について考えるよう促す。(7/8)

観点別評価からの評価整理表

観点 学習過程における評価時	つかむ	調べる		深める		広げる
	第1時	第2時～第4時	第5時	第6時	第7時	第8時
ア 関心・意欲・態度	ア①	ア①				ア②
イ 思考・判断	イ①		イ②	イ②	イ②	イ②
ウ 技能・表現		ウ①	ウ②			
エ 知識・理解				エ①	エ②	

第1時指導案【見通し1】

- ねらい インターネットの利用に関するグラフ資料から、インターネットの利用者が増えた理由についての予想を関連図に表し、自分の問題をもつことができる。
- 準備 インターネットの利用者の増加を表すグラフ、写真資料、関連図（ワークシート）
大型スクリーン、プロジェクター、コンピュータ
- 展開

学 習 活 動	時 間	学習活動への支援及び留意点	評価項目																								
1. インターネットの利用人口が増えてきた理由について予想する。		○驚きをもってインターネットの利用者の増加をとらえられるように、スクリーンに拡大して提示する。	○グラフ、写真資料から、問題に対する予想を出し合い、問題を設定しようとしているか、話合いやワークシートの記述を分析して評価する。(ア①)																								
課題…インターネットの利用者が増えたのはどうしてだろう																											
<table><caption>インターネット利用人口と普及率の推移 (平成15年度情報通信白書より)</caption><thead><tr><th>年</th><th>利用人口 (万人)</th><th>普及率 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成19</td><td>1,155</td><td>9.2%</td></tr><tr><td>平成20</td><td>1,694</td><td>13.4%</td></tr><tr><td>平成21</td><td>2,706</td><td>21.4%</td></tr><tr><td>平成22</td><td>4,708</td><td>37.1%</td></tr><tr><td>平成23</td><td>5,593</td><td>44.0%</td></tr><tr><td>平成24</td><td>6,942</td><td>54.9%</td></tr><tr><td>平成25</td><td>7,730</td><td>60.8%</td></tr></tbody></table>	年	利用人口 (万人)		普及率 (%)	平成19	1,155	9.2%	平成20	1,694	13.4%	平成21	2,706	21.4%	平成22	4,708	37.1%	平成23	5,593	44.0%	平成24	6,942	54.9%	平成25	7,730	60.8%	15分	・7,730 万人 ・国民の2人に1人が利用（5人に3人が利用） ・7年間でおおよそ7倍 ・急激に伸びている ○自分の家、身近な店や会社、公共施設での活用に気付かせるため、写真資料やホームページをプリントアウトしたものなどを必要に応じて提示する。
年	利用人口 (万人)	普及率 (%)																									
平成19	1,155	9.2%																									
平成20	1,694	13.4%																									
平成21	2,706	21.4%																									
平成22	4,708	37.1%																									
平成23	5,593	44.0%																									
平成24	6,942	54.9%																									
平成25	7,730	60.8%																									
2. インターネットの利用人口が増えてきた理由について考え、個人で関連図を作成する。	10分	○関連図の書き方に慣れていないので、具体的な事例を示しながら、作業を進めるよう支援する。 <table><tr><td>同じ内容を表す＝</td><td>対立を表す⇔</td></tr><tr><td>因果関係を表す→</td><td>展開を表す――</td></tr></table> ○必要に応じて机間指導を行う。	同じ内容を表す＝	対立を表す⇔	因果関係を表す→	展開を表す――																					
同じ内容を表す＝	対立を表す⇔																										
因果関係を表す→	展開を表す――																										
3. 作成した関連図をもとに話し合いながら、グループの関連図を作成する。	10分	○グループの人数は4～5人とし、少人数で話し合いができるようにする。 ○必要に応じて机間指導を行う。 ○共通しているものをまとめながら、問題の組織化ができるよう支援する。																									
4. 各グループの追究の視点について発表する。 ・ 家での活用 ・ 店での活用 ・ 会社での活用 ・ 公共施設での活用 ・ 農業・水産業での活用など 共通課題…インターネットのひみつをさぐろう！	5分	○各グループの追究の視点を発表することにより、自分のグループの追究の視点と比べさせ、参考にさせるようにする。																									
		○各グループの追究の視点を網羅するものとして、「インターネットのひみつをさぐろう」という共通課題を提示する。																									
5. 本時の学習を振り返る。 ○振り返りを学習カードに書く。 ○次時の学習内容について知る。	5分	○評価項目の内容を正しく理解して評価できるように、説明を補足したり助言したりする。																									

第2～3時指導案

- ねらい 自分の家、身近な店や会社、公共施設におけるインターネットを利用した情報の活用について、各種の基礎的な資料を活用して調べたり、電話やファックス等の情報機器を活用して調べたりすることができる。
- 準備 情報たんけんカード、調べ学習用の資料、コンピュータ、学び方カード（情報機器の操作）
- 展開

学 習 活 動	時 間	学習活動への支援及び留意点	評価項目
1. 本時の学習内容を確認する。 私たちの身の回りでは、インターネットを利用して、どんな情報をどのように生かしているだろうか			○自分の学習課題の解決に向けて、進んで調べているかを児童の行動の観察や情報たんけんカードの記述をもとに分析し評価する。(ア①) ○資料を収集・選択し、そこから必要な情報を効果的に読み取っているか子供たちの追究活動を観察し、情報たんけんカードの記述をもとに評価する。(ウ①)
	5分	○インターネットを活用して、どんな情報をどのように生活や仕事に生かしているか調べていくことを確認する。	
2. 自分の家、身近な店や会社、公共施設における情報の働きや活用の仕方について調べる。 ○自分の家での活用 ・様々な情報収集 ・電子メール ・ネットショッピング ・ホームページの作成 ○身近な店での活用（コンビニ） ・店の商品の宣伝 ・ネットショッピング ・天気予報の活用 ・POSシステムなど ○身近な会社での活用（自動車販売店、宅配会社など） ・ホームページの作成 ・車の宣伝、カタログ ・電子メールによる問い合わせ ・荷物の情報管理 ○公共施設（市立図書館、市役所） ・ホームページの作成 ・各種情報の公開 ・本の管理、他の図書館との連携 ○農業や漁業での活用（農業情報センター・漁業情報センター） ・各種情報の公開（天気、海況図、作況指数など）	35分	○一人一人が責任をもって調べることができるように、グループの人数は4～5人とする。 ○自分の家での活用については、各家庭で聞き取り調査を実施しておくようにする。 ○調査対象となる店や会社、施設には事前に連絡をしておき許可を得ておく。 ○児童が調べ学習を円滑に進められるよう、各種資料コーナーやコンピュータ資料など作成し準備しておく。 ○電話やファックス、電子メールなどを活用し、教科書や資料集、図書館等の資料では解決できない問題について調べることができるようにする。 ○情報機器の操作方法については、学び方カードを作成し、児童の調査活動を支援する。	
3. 本時の学習を振り返る。 ○振り返りを学習カードに書く。 ○次時の学習内容について知る。	5分	○評価項目の内容を正しく理解して評価できるように、説明を補足したり助言したりする。 ○次時は、本時の追究の続きを行うことを知らせる。	

第4時指導案

1. ねらい 自分の家、身近な店や会社、公共施設におけるインターネットを利用した情報の活用について、聞き取り調査をしたり、電話やファックス等の情報機器を活用して調べたりすることができる。
2. 準備 情報たんけんカード、調べ学習用の資料、コンピュータ、学び方カード（情報機器の操作に関するもの）
3. 展開

学 習 活 動	時 間	学習活動への支援及び留意点	評価項目
1. 本時の学習内容を確認する。 私たちの身の回りでは、インターネットを利用して、どんな情報をどのように生かしているだろうか	3分	○前時に引き続き、調べ学習を進めていくことを確認する。	○自分の学習課題の解決に向けて、進んで調べているかを児童の行動の観察や情報たんけんカードの記述をもとに分析し評価する。(ア①)
2. 自分の家、身近な店や会社、公共施設における情報の働きや活用の仕方について調べる。 ○自分の家での活用 ・様々な情報収集 ・電子メール ・ネットショッピング ・ホームページの作成 ○身近な店での活用（コンビニ） ・店の商品の宣伝 ・ネットショッピング ・天気予報の活用 ・POSシステムなど ○身近な会社での活用（自動車販売店、宅配会社など） ・ホームページの作成 ・車の宣伝、カタログ ・電子メールによる問い合わせ ・荷物の情報管理 ○公共施設（市立図書館、市役所） ・ホームページの作成 ・各種情報の公開 ・本の管理、他の図書館との連携 ○農業や漁業での活用（農業情報センター・漁業情報センター） ・各種情報の公開（天気、海況図、作況指数など）	37分	○自分の家での活用については、各家庭で聞き取り調査を実施しておくようにする。 ○調査対象となる店や会社、施設には事前に連絡をし、許可を得ておく。 ○児童が調べ学習を円滑に進められるよう、各種資料コーナーやコンピュータ資料など作成し準備しておく。 ○電話やファックス、電子メールなどを活用し、教科書や資料集、図書館等の資料では解決できない問題について調べることができるようにする。 ○情報機器の操作方法については、学び方カードを作成し、児童の調査活動を支援する。 ○調べて分かった事実だけではなく、それに対する自分の考えを情報たんけんカードに書けるようにする。	
3. 本時の学習を振り返る。 ○振り返りを学習カードに書く。 ○次時の学習内容について知る。	5分	○評価項目の内容を正しく理解して評価できるように、説明を補足したり助言したりする。 ○次時は、調べて分かったことをグループで交流し合い、関連図を作成することを伝える。	

第5時指導案【見通し2】

- ねらい インターネットを利用した情報の活用について、調べたことをもとにグループで話し合いながら関連図を作成し、自分なりの考えをもつ。
- 準備 情報たんけんカード、ワークシート、関連図（グループ用）
- 展開

学 習 活 動	時 間	学習活動への支援及び留意点	評価項目
1. 本時の学習内容を確認する。			
調べたことをグループで話し合い、関連図に表そう			
	5分	○調べて分かったことをもとにグループで話し合いながら、関連図を作成することを確認する。	
2. インターネットのひみつについて、調べて分かったことをグループで話し合う。	15分	○自分が調べた事実や根拠となる資料など提示し合いながら、事実の共有化を図らせるようにする。 ○発表は一人3分程度とし、調べて分かったことを簡潔に伝えられるようにする。 ・友達の発表を聞きながら、分かったことや気付いたことは、ワークシートにメモをさせるようにする。 ○自分の調べた事実と友達の調べた事実を比べたりつなげたりしながら話し合うよう助言する。	○調べたことを自分の考えと比べたり関連付けたりして、自分なりの意味付けができていくかどうか、ワークシートの記述をもとに分析し評価する。（イ②）
3. 話し合ったことをもとにグループで発表用の関連図、発表用の補助資料をまとめる。	20分	○グループで話し合ったことをもとに、発表用の関連図をまとめることができるようにする。 ○発表用の補助資料を作成する場合は、一人A4用紙一枚とし、短時間で仕上げるようにする。 ・図やイラスト、グラフなどを使って、インターネットのひみつを端的に表せるように支援する。 ・補助資料の作成は、時間が足りない場合、課外の活動とする。	○調べたことが簡潔にまとめられているか、児童が作成した作品をもとに評価する。（ウ②）
4. 本時の学習を振り返る。 ○振り返りを学習カードに書く。 ○次時の学習内容について知る。	5分	○評価項目の内容を正しく理解して評価できるように、説明を補足したり助言したりする。 ○次時は、調べて分かったことを全体で交流し合うことを伝える。	

第6時指導案【見通し3】

- ねらい インターネットを利用した情報の活用について、グループごとに調べたことを発表し、情報と生活、情報と産業のかかわりについて考えることができるようにする。
- 準備 各グループで作成した関連図、発表用の補助資料
- 展開

学 習 活 動	時 間	学習活動への支援及び留意点	評価項目
1. 本時の学習内容を確認する。			
調べたことを発表し合い、暮らしとインターネットのかかわりについて考えよう			
	3分	○本時は、調べたことを発表し合い、インターネットと生活や産業とのかかわりについて考えていくことを伝える。	○自分が調べた事実と友達が調べた事実を比べたりつなげたりして自分なりの意味付けができているか、関連図の記述をもとに分析し評価する。 (イ②)
2. グループで作成した関連図や発表用の補助資料をもとに、調べたことを発表し合い、分かったことを交流し合う。	32分	○発表がスムーズに進められるよう、発表の仕方や進め方について指導しておく。 ○他の班の発表を聞く時、自分の調べた事実や気付きと比べながら聞き、気付いたことは、自分のグループで作成した関連図に赤で書き足していく。 ○グループで作成した関連図は、OHPまたはプロジェクターを使って拡大して提示する。	
3. インターネットと生活や産業とのかかわりについて、新しく分かった事実やこれまでに調べてわかっていた事実と比べたりつなげたりして、自分なりの意味付けを行う。	5分	○他の班の発表を聞いて新たに分かった事実を関連図に整理し、新しく分かった事実やこれまでにわかっていた事実と比べたり、つなげたりして、自分なりの意味付けを行えるようにする。 ○他の班の発表を聞いて、インターネットと私たちの生活や産業とのかかわりについて考えたことをワークシートに書かせるようにする。	
4. 本時の学習を振り返る。 ○振り返りを学習カードに書く。 ○次時の学習内容について知る。	5分	○評価項目の内容を正しく理解して評価できるように、説明を補足したり助言したりする。 ○次時は、情報に囲まれた私たちの生活のよい点や問題点について考えていくことを知らせる。	

第7時指導案

- ねらい 「インターネットはいらない」をテーマに情報に囲まれた自分たちの生活のよい点や問題点について話し合い、情報の有効な活用の仕方について考える。
- 準備 誤報、個人情報の漏洩、迷惑メール、インターネットを巡るトラブルなどに関する新聞記事等
- 展開

学 習 活 動	時 間	学習活動への支援及び留意点	評価項目
1. 本時の学習内容を確認する。		「インターネットはいらない」をテーマに情報化社会のよい点と問題点について話し合い、情報の有効な活用の仕方について考えよう	○情報化社会のよい点と問題点を指摘しているか、話し合いの様子やワークシートの記述から分析し評価する。 (イ②) ○報道被害やコンピュータウイルス、個人情報の流出などの事実から、情報が国民生活に大きな影響を及ぼしていること、情報の有効な活用が大切であることが分かっているかどうか、発言やワークシートの記述から評価する。(エ②)
	3分	○本時は、情報に囲まれた自分たちの生活のよい点や問題点について話し合い、情報の有効な活用の仕方について考えていくことを伝える。	
2. 「インターネットはいらない」をテーマに話し合う。 ○賛成（いらない派） ・必要でない情報もある。 ・情報を見分けるのが大変。 ・迷惑メールなど問題がある。 ○反対（いる派） ・たくさんの情報があると便利。 ・知りたいことをすぐに知ることができる。 ・必要な情報を必要なときに得ることができる。	10分	○「インターネットはいらない。」をテーマに、立場を決めて討論を行うようにする。 ・インターネット利用者増加のグラフ、インターネットに関する苦情件数のグラフを提示する。 ・誤報による被害、コンピュータウイルス、個人情報の流出など、新聞記事などの資料を提示し具体的な事例をもとに自分の考えをまとめさせるようにする。	
3. 1で考えたことをもとに全体で話し合う。	20分	○肯定側、否定側にわかれ、肯定側から、自分の考えを発表させるようにする。（それぞれ5分間ずつ） ・感情的にならないように注意する。	
4. 情報を受信したり発信したりする上で気をつけなければならないことについて自分の考えをまとめる。 ○情報を発信する。 ・発信する情報に責任をもつ。 ・人権に気をつける。 ○情報を受信する。 ・情報の質に気をつける。 ・正確な情報かどうか。 ・本当に必要な情報かどうか。	7分	○ワークシートを活用し、これまでの話し合い活動をもとに、自分の考えをまとめさせる。 ・消費可能な情報量と実際の消費情報量のグラフを提示し、あふれる情報の中から、必要な情報を選んで活用していることに気付かせていく。 ・情報を発信するときに注意すること、情報を受信するときに注意することをまとめさせ、情報の有効な活用が大切であることに気付かせていく。	
5. 本時の学習を振り返る。 ○振り返りを学習カードに書く。 ○次時の学習内容について知る。	5分	○評価項目の内容を正しく理解して評価できるように、説明を補足したり助言したりする。 ○次時は、今までに学んだことを振り返り、関連図をもとに、まとめの作文を書くことを知らせる。	

第8時指導案

- ねらい これまでの学習で学んだことを振り返り、インターネットを中心とした情報と私たちの生活、情報と産業とのかかわりについて、関連図をもとに、学習のまとめの作文を書くことができる。
- 準備 前時までに作成した関連図、ワークシートなどの資料
- 展開

学 習 活 動	時 間	学習活動への支援及び留意点	評価項目
1. 本時の学習内容を確認する。			
学んだことを振り返り、関連図をもとにして、学習のまとめの作文を書こう			
	5分	○本時は、学んだことを振り返り、前時までに作成した関連図をもとに、まとめの作文を書くことを伝える。	○情報の有効な活用の仕方について考え、これからの情報と国民生活のかかわりについて考え、作文を書こうとしているか、児童の行動の様子や作文の記述から判断し評価する。(ア②)
2. 今まで学んだことを振り返り、関連図をもとにして、事象同士のつながりや自分の生活とのつながりを考えながらまとめの作文を書く。  くらしとインターネット 5年 組 名前 _____ 共通課題…「インターネットのひみつをさぐろう！」 はくはインターネットのひみつについて高調べました。 ① 家での活用…… 家では買い物やメール、ホームページにインターネットを活用していることがわかりました。特に買い物では家にいながら買い物ができて便利だということもわかりました。しかしインターネットにはさまざまな問題点もありました。それはコンピュータウイルスや買った物がとじかたないなどのこともあるということがわかりました。 ② 学校での情報活用…… 学校では主に調べ学習に使っていることがわかりました。しかし学校では学年によって色々なことをしていることがわかりました。 ③ 漁業での情報活用…… 漁業では人工衛星を通じて魚の位置や分布図を漁業情報センターに送ります。そして水温分布図を作り、そして漁船では送られてきた情報をもとにして魚をします。このようなシステムがあるので、たくさん魚がつかれるということがわかりました。	35分	○情報と私たちの生活について、インターネットを利用した情報活用を中心に、まとめの作文が書けるよう支援する。 同じ内容を表す ＝ 展開を表す — 対立（背反）を表す <=> 手順・因果関係を表す → ・矢印の意味について確認しておく。 ・自分の家、身近な店や会社、公共施設、農業や漁業などの産業における情報活用など、視点ごとにまとめていく。 ・矢印などの記号は、「そして」、「しかし」などの接続詞に置き換えて作文にまとめるようにする。	○これまでに学習してきたことをもとに、情報の有効な活用の仕方について、自分の生活とのつながりで、適切に判断しているか関連図や作文の記述から評価する。(イ②)
3. 本時の学習を振り返る。 ○振り返りを学習カードに書く。	5分	○評価項目の内容を正しく理解して評価できるように、説明を補足したり助言したりする。	